



平成 20 年 3 月 31 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 大 庄  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 平 辰  
 (コード番号 9979 東証第1部)  
 問 合 せ 先 常 務 取 締 役 管 理 本 部 長 水 野 正 嗣  
 (TEL 03-5764-2229)

## 中間期及び通期業績予想(連結及び単体)の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 20 年 8 月期(平成 19 年 9 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日)の中間期及び通期業績予想(連結及び単体)を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

### 記

#### 1. 平成 20 年 8 月期中間期の業績予想の修正

##### (1) 単体(平成 19 年 9 月 1 日～平成 20 年 2 月 29 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A) (平成 19 年 10 月 11 日発表)	37,900	1,600	1,625	700	33 円 33 銭
今回修正予想(B)	37,283	820	870	263	12 円 52 銭
増減額(B-A)	△617	△780	△755	△437	△20 円 81 銭
増減率(%)	△1.6	△48.8	△46.5	△62.4	△62.4
前中間期(平成 19 年 2 月中間期) 実績	36,994	1,437	1,524	624	29 円 73 銭

##### (2) 連結(平成 19 年 9 月 1 日～平成 20 年 2 月 29 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A) (平成 19 年 10 月 11 日発表)	44,600	1,890	1,900	825	39 円 28 銭
今回修正予想(B)	44,610	1,131	1,120	358	17 円 04 銭
増減額(B-A)	10	△759	△780	△467	△22 円 24 銭
増減率(%)	0.0	△40.2	△41.1	△56.6	△56.6
前中間期(平成 19 年 2 月中間期) 実績	43,377	1,697	1,765	739	35 円 19 銭

## 2. 平成20年8月期（通期）の業績予想の修正

### （1）単体（平成19年9月1日～平成20年8月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （平成19年10月11日発表）	76,300	3,400	3,450	1,500	71円41銭
今回修正予想（B）	75,500	2,450	2,550	950	45円22銭
増減額（B－A）	△800	△950	△900	△550	△26円18銭
増減率（％）	△1.0	△27.9	△26.1	△36.7	△36.7
前期（平成19年8月期）実績	74,625	3,084	3,153	1,226	58円38銭

### （2）連結（平成19年9月1日～平成20年8月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （平成19年10月11日発表）	90,200	3,980	4,000	1,750	83円32銭
今回修正予想（B）	90,200	3,150	3,150	1,150	54円75銭
増減額（B－A）	0	△830	△850	△600	△28円57銭
増減率（％）	0.0	△20.9	△21.3	△34.3	△34.3
前期（平成19年8月期）実績	87,829	3,588	3,627	1,433	68円24銭

## 3. 修正の理由

### （1）中間期単体業績予想の修正理由

当中間期におけるわが国経済は、穏やかな回復基調で推移してきたものの、原油価格の高騰やサブプライムローン問題に端を発した大幅な株価下落など先行き懸念要因が相次ぎ、景気の不透明感が一層高まる状況となりました。

外食業界におきましても、企業間競争の激化に加えて、原油高を発端とした原材料価格や食材価格の高騰、中国産食材事件の勃発等のマイナス要因もあり、依然として厳しい経営環境が続きました。

このような中で、当社は「当社の強みを活かした既存店売上高の増加策」を最重要施策として位置付け、各種料理メニューの革新、ランチ営業の強化、イベント企画の見直し、宴会キャンペーンの実施、会社訪問による営業活動の強化などに取り組みました。

しかしながら、個人消費の低迷に加えて、外食市場を取り巻くマイナス要因も影響し、さらには1～2月にかけての厳冬、降雪といった天候不順の要因も重なり、既存店売上高が予想以上に低迷しました。

さらに、新規出店ペースもやや遅れたこともあり、売上高につきましては、前回予想を下回る見通しとなりました。

一方、コスト面につきましては、原油高によるマグロ等の魚価や各種原材料価格の高騰などの要因により売上原価率が高まったことや、既存店売上高の低迷により人件費を中心に販売費及び一般管理費の負担比率が高まりました。

この結果、営業利益、経常利益並びに中間純利益につきましては、前回予想を下回る見通しとなりました。

(2) 中間期連結業績予想の修正理由

売上高につきましては、単体は前回予想を下回ったもののグループ会社の売上高が予想を上回る見込みのため、前回予想を若干ながら上回る見通しです。しかしながら、営業利益、経常利益並びに中間純利益につきましては、単体業績が前回予想を下回ることを主な理由として、業績予想を修正するものであります。

(3) 通期単体業績予想の修正理由

通期におきましても、中間期同様に厳しい環境下が予想されるため、前回予想を修正するものであります。なお、下半期につきましては、引き続き「既存店売上高の増加策」を最重要施策として位置付けて取り組んでまいります。また、食材や酒・飲料価格の高騰に対する適切な対応策を講じるとともに、人件費をはじめとした経費コントロール策もさらに強化してまいります。

(4) 通期連結業績予想の修正理由

売上高につきましては、単体は前回予想を下回るもののグループ会社の売上高が予想を上回る見込みのため、前回予想通りとなる見通しです。しかしながら、営業利益、経常利益並びに当期純利益につきましては、単体業績が前回予想を下回ることを主な理由として、業績予想を修正するものであります。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上